

承認番号	3954
研究課題名	J-DOPPS V検体を用いた血液透析患者における還元型アルブミン比率の検討
研究の意義・目的	<p>心血管イベントは透析患者の主たる死亡原因であり、動脈硬化の進行には酸化ストレスが密接に関与していることが知られている。近年、酸化ストレスの新たな指標として、還元型アルブミン比率（還元型アルブミン/酸化型+還元型アルブミン）が注目されているおり、比率の低下している血液透析患者では死亡率・入院率が高いと予想する。</p> <p>還元型アルブミン比率が血液透析患者の予後予測のサロゲートマーカーであれば、今後血液透析患者の予後予測因子として臨床応用が可能である点が意義深い。</p> <p>※J-DOPPS V：DOOPS（日本および欧米他21か国で行われている血液透析患者を対象とした調査）の一部であるJ-DOPPSの第5期（2012年6月1日～2015年5月31日）調査</p>
研究期間	承認後～2020年3月31日
研究対象者の範囲	2012年6月1日～2015年5月31日にJ-DOPPS Vに登録された血液透析患者さんが対象です。
利用又は提供する試料・情報の項目	J-DOPPS Vでの保存血清を用いて、東京大学医学部にて酸化型/還元型アルブミンを測定します。還元型アルブミン比率と臨床指標（血液検査の結果・血圧や内服など）の関連を調べます。また死亡・入院などの関連も調べます。
利用者の範囲	<p>保存血清：共同研究機関（J-DOPPS V） 還元型アルブミン比率測定：東京大学医学部附属病院 統計解析：Arbor Research for Collaborative HealthもしくはiHope International</p> <p>なお大阪市立大学が研究の代表施設であり、得られた研究成果を公表します（保存血清及び研究対象者の死亡・入院等の情報は、J-DOPPS Vの共同研究機関より収集し、資金提供者である協和発酵キリン株式会社が所有しています）。</p>
研究機関の情報	研究代表者：大阪市立大学代謝内分泌病態内科学 教授 稲葉雅章
代表施設のURL	http://www.med.osaka-cu.ac.jp/interm2/
研究成果を公表する方法	腎臓および透析関連学会、専門誌で研究成果を公表する予定である。
試料・情報の提供方法	J-DOPPS Vでの保存血清を用いて、東京大学医学部で還元型アルブミン比率が測定され、Arbor Research for Collaborative HealthもしくはiHope Internationalにて統計解析されたデータを本学に提供頂きます。 なおこれらは全て、匿名化されています（特定の個人を識別できません）。
試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	研究代表者：大阪市立大学代謝内分泌病態内科学 教授 稲葉雅章
拒否機会の保障	本研究の対象者の方は、問い合わせ先に連絡することによっていつでも本研究への参加を拒否することができます。また、研究への参加を拒否されても、診療に関する不利益等を受けることは一切ありません。
拒否を受け付ける方法	大阪市立大学代謝内分泌病態内科学 担当者：仲谷 慎也 電話番号：06-6645-3806